

# 真宗総合研究所東京分室 公開シンポジウム 「宗教と多文化共生 —「在日コリアンの宗教」の現在—」

大谷大学真宗総合研究所東京分室（所在：東京都文京区湯島）は、本研究所の設置目的にもとづき、本学が社会に対して責任を有する研究分野において、若手研究者に研究機会と環境を提供しています。「現代と自分がどうかかわるか」「現代で自分はどのように生きていくか」を根幹とした研究テーマを持ち、ともすると専門分野の研究者にしか通じない言葉で語られがちな研究成果を、一般の方々に理解される言葉で語ることのできる次代の研究者の育成をはかっています。

真宗総合研究所東京分室では、室長及びPD研究員による「宗教と社会の関係をめぐる総合的研究—現代社会における宗教と共生—」をテーマとした共同研究を行っています。本研究は、人類にとって根本的な問いであり続ける、「どう生きるのか?」「どう死ぬのか?」という問題を主軸とし、宗教というフィルターを通して、社会に存在する、もしくは存在した様々な価値観の構造を明らかにすることを目指しており、当該研究の活動の一環として、この度公開シンポジウムを開催することといたしました。

## ■シンポジウム概要■

グローバル化の進展にともなう移民の急増により、「多文化共生」の必要性が一段と重要性を増す昨今、移民と宗教の関わりに注目する研究が蓄積されている。移民にとって宗教は単なる宗教的欲求の充足だけではなく、異郷の地での生活の質を向上させる様々な社会的機能を有する。朝鮮半島から来日した人々とその子孫で構成される在日コリアンは、儒教式の祖先祭祀（チェサ）や巫俗儀礼（クツ）、キリスト教などに関わってきた。もともとそれらは「在日コリアン（特に一世）のための宗教」であった。しかし、現在、在日コリアン一世のほとんどは姿を消し、二世や三世に移り変わっている。さらに韓国から新たに到来してきたニューカマーや日本人もそうした宗教（儀礼）に関わっているケースがみられる。

本シンポジウムでは、多様な文化的背景をもつ人々の混在化によって、在日コリアンが中心となってきた宗教の社会的機能がいかに変化してきたのかを報告する。それを通して、「宗教と多文化共生」の一端を明らかにする。

本シンポジウムにつきまして、取材のご希望がございましたら、本学入学センターにご連絡いただきますようお願い申し上げます。電話番号：075-411-8114 E-mail：nyushi-c@sec.otani.ac.jp

## 開催概要

開催日時：2022年11月26日（土）13：00～16：10

場 所：対面・オンライン(zoom)のハイブリッドにて開催  
(会 場) 大谷大学響流館3階メディアホール

〒603-8143 京都市北区小山上総町

定 員：会場参加者の定員 大谷大学教職員 50名／大谷大学関係者以外 18名  
申込フォーム <https://forms.gle/E9WKXqArvZ7j97cq5>

登壇者：荻 翔一（大谷大学真宗総合研究所東京分室PD研究員）

中西 尋子（大阪公立大学都市文化研究センター研究員）

宮下 良子（東洋大学アジア文化研究所客員研究員／

大阪公立大学都市科学・防災研究センター特別研究員）

吉田 全宏（大阪公立大学都市文化研究センター研究員）

コメンター：谷 富夫（大阪市立大学名誉教授／前甲南大学文学部教授）

## ■研究意義・目的

この数年、人類が経験している新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、現代日本社会の私たちの心や身体、生活スタイルにも、大きな影響を与えています。あまつさえ多様な価値観を内包する現代社会において、様々な変化を強いられているなか、宗教のあり方もまた問われています。当然ながら、現代社会において、宗教が果たすべき役割やその可能性をより多角的な視点から見直すべきとの声も強まっています。そこで本研究は、宗教と社会との多種多様な関わり合いが見られる現代の東京・首都圏という場において、専門性を異にする研究員たちが各自のディシプリンに基づく独自の視点から、社会における宗教の役割を問い直すことを目的としています。

## ■研究期間を通しての目標・成果

人類にとって根本的な問いであり続ける、「どう生きるのか?」「どう死ぬのか?」という問題を主軸とし、宗教というフィルターを通して、社会に存在する、もしくは存在した様々な価値観の構造を明らかにすることを目指します。具体的なテーマとしては、生命倫理、道徳、性差、人権、秩序、死生観、メディア、政教分離、優生思想、多文化共生などを取り上げ、宗教との関係性を考察します。各年度に上記テーマに関連した研究会を開催することで当該問題に関する理解を深めるとともに、シンポジウムを開催して広く研究成果を大学の内外に向けて発信します。本年度は、サブテーマ「現代社会における宗教と共生」を設定し、「共生」を鍵概念に、私たちと宗教の多様な関係のあり方について考察し、宗教の役割を解明していきます。

## 東京分室長・PD研究員紹介

### 東京分室長 福島 栄寿（文学部 教授）

グローバル化が進展する現代世界では、反面、民族的アイデンティティへの意識が強まりつつある。ポスト・コロナ時代の日本でも、人々の国境を越えた移動が活発化することに伴い、多民族間の他者理解の適切なあり方が、ますます問われることになるだろう。本シンポジウムでは、こうした多様な文化的背景を持つ人々の混在化と「共生」の課題を射程に入れながら、現代日本における在日コリアンと〈宗教〉の関わり方に注目して議論がなされる。本シンポジウムが、〈宗教〉を介した他者理解への可能性について考える機会となることを期待している。

■経歴：1965年京都市生まれ。大谷高校（京都）卒業後、山口大学人文学部へ進学。同人文科学研究科修士課程（地域文化専攻）修了後、大谷大学大学院文学研究科博士後期課程（仏教文化専攻）へ進学、1995年単位取得退学。博士（文学）。非常勤講師として京都光華女子中・高校、大谷大学、千葉大学、立命館大学、北海学園大学大学院、九州大学大学院、大谷専修学院などで教える。1996年より京都光華女子大学真宗文化研究所職員、2001年より真宗大谷派教学研究部研究員、2007年より札幌大谷大学准教授を経て、2011年より大谷大学准教授、2017年より現職。真宗総合研究所東京分室長 2022.4～

### <PD研究員>

- 磯部 美紀（PD研究員・社会学）
- 荻 翔一（PD研究員・宗教社会学）
- 澤崎 瑞央（PD研究員・仏教学）
- 陳 宣聿（PD研究員・宗教学）



## 大谷大学について

大谷大学は、1665（寛文5）年の江戸時代、京都・東六条に創設された東本願寺の学寮をその前身としています。その後、いくたびかの変遷を経て、1901（明治34）年、近代的な大学として東京・巣鴨の地に開学。1913（大正2）年、現在の地に移転開設しました。

親鸞の仏教精神に基づき、“人材”ではなく“人物”の育成を目標とする学び「人間学」を教育・研究の根幹とし、広く一般社会へ開かれた大学として発展を続けています。2021（令和3）年には、近代化120周年を迎えました。



<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

大谷大学 入学センター（広報担当） 後藤・野路

TEL：075-411-8114 E-mail:nyushi-c@sec.otani.ac.jp

## 真宗総合研究所東京分室公開シンポジウム

# 「宗教と多文化共生

# —「在日コリアンの宗教」の現在—

グローバル化の進展にともなう移民の急増により、「多文化共生」の必要性が一段と重要性を増す昨今、移民と宗教の関わりに注目する研究が蓄積されている。移民にとって宗教は単なる宗教的欲求の充足だけではなく、異郷の地での生活の質を向上させる様々な社会的機能を有する。朝鮮半島から来日した人々とその子孫で構成される在日コリアンは、儒教式の祖先祭祀(チェサ)や巫俗儀礼(クツ)、キリスト教などに関わってきた。もともとそれらは「在日コリアン(特に一世)のための宗教」であった。しかし、現在、在日コリアン一世のほとんどは姿を消し、二世や三世に移り変わっている。さらに韓国から新たに到来してきたニューカマーや日本人もそうした宗教(儀礼)に関わっているケースがみられる。

本シンポジウムでは、多様な文化的背景をもつ人々の混在化によって、在日コリアンが中心となってきた宗教の社会的機能がいかに変化してきたのかを報告する。それを通して、「宗教と多文化共生」の一端を明らかにする。

### 報告者

萩 翔一 (大谷大学真宗総合研究所東京分室PD研究員)

中西 尋子 (関西大学非常勤講師/大阪公立大学都市文化研究センター研究員)

宮下 良子 (東洋大学アジア文化研究所客員研究員/大阪公立大学都市科学・防災研究センター特別研究員)

吉田 全宏 (大阪公立大学都市文化研究センター研究員)

### コメンテーター

谷 富夫 (大阪市立大学名誉教授/前甲南大学文学部教授)

日時：2022年11月26日(土)13:00~16:10

場所：大谷大学 響流館3階 メディアホール

〒603-8143 京都市北区小山上総町(地下鉄烏丸線「北大路駅」6番出口すぐ)

申込：事前申込制

<https://forms.gle/E9WKXqArvZ7j97cq5>

定員：会場参加者の定員

・大谷大学教職員 50名

・大谷大学関係者以外 18名

※オンライン参加のURLは開催日前日にお送りいたします。



申込フォームQRコード

## 会場参加者へのご案内

感染拡大防止のため、以下の事項にご協力ください。

- 当日の朝からさかのぼって14日の間に、ご本人またはご家族が息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、発熱や咳、味覚・嗅覚の異常等の症状が1つ以上ある場合は参加をご遠慮ください
- 身体的距離の確保、マスクの着用、手指の消毒をお願いいたします
- 開催が縮小・中止となる場合がありますので、大谷大学ホームページでご確認をお願いいたします
- 受付時に「健康チェックシート」の提出にご協力願います

主催：大谷大学真宗総合研究所東京分室

住所：〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目19-11

問合せ：kenkyusyo\_t@sec.otani.ac.jp@sec.otani.ac.jp



大谷大学HP